

平成28年度第3回千葉競輪場開催業務等包括委託審査委員会議事録要旨

1 日 時 平成28年11月30日（水）午後1時30分～午後2時00分

2 場 所 千葉競輪場4階応接室

3 出席者 （委員）

篠崎委員長、高岡委員、山本委員

（事務局）

鴻崎所長、池原経済企画課長補佐、鈴木主査、山本主任主事

（日本写真判定株式会社 以下JPF）

荻原事業長、石塚事業長代理、青野

4 議 題 （1）委員長の選出について

（2）千葉競輪開設記念等の報告について

（3）その他

5 会議経過

（事務局 鈴木主査）

- ・議題1の委員長の選出について、委員の任期が変わることに伴い、当委員会の委員長を千葉競輪場開催業務等包括委託審査委員会設置条例第4条第2項の規定に基づき、各委員からの互選で決定する。決定までは、篠崎前委員長の進行とする。

（篠崎前委員長）

前委員長として委員長決定まで会議を進行する。委員長の選出は条例により互選となっている。各委員の意見を伺う。

<篠崎氏にとの声あり>

（篠崎前委員長）

各委員から私が推薦された。

私が委員長職に就くということでよいか。

（委員全員）

異議なし。

(篠崎委員長)

それでは、私が委員長職に就き、引き続き議事を進行する。条例第4場第4項によると、「委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。」ということになっている。今日は不在だが、藤本委員を指名する。

議題2の千葉競輪開設記念等の報告について、J P Fに説明を求める。

(J P Fが配布資料に沿って説明)

(千葉競輪開設記念について)

- ・今回の千葉競輪開設記念の目標は60億円。2つの好条件があった。1つ目は初日が10月15日の年金受給日であったこと。2つ目は2日目の16日の日曜日にFⅠ開催が他になかったこと。FⅡ開催は3つあったが、ほぼ単独開催といえた。
- ・初日、2日目の土日は天候に恵まれたが、3日目は朝から雨で、非常に厳しい条件となった。
- ・全国的に人気のある選手が揃い、番組も準決勝までは地元選手が残るという好条件が重なっていたが、4日目に地元千葉の選手や、GⅠ優勝の稲垣選手が決勝に残れなかったため、4日目に売れる条件が揃わなかった。
- ・3日目の最終レースで121万円という高配当が出た。千葉は買いにくいと、お客様に考えられてしまった。
- ・今年度開催の記念開催の中での車券売上額は、久留米に次いで2番目という好成績だった。
- ・包括業務を受託してから、イベント等とレースを合わせて、場内で一体感を感じられるように盛り上げることができたと考える。
- ・今回の千葉競輪開設記念では、キャッシュバックを2通り用意した。1つは変動制で89～890万円まで、売上に乗じて変動させた。もう1つはチャリロト、Kドリームズ、オッズパークの3民間投票サイトのキャッシュバックのキャンペーンを各民間投票サイトに任せた。同時多発的にキャッシュバックがたくさん行われることによって、インターネット投票、電話投票の売上額が前年度比で2.6%伸びた。お客様の目にも触れやすかったと思う。
- ・今回、チャリロトの売上額が増えた。昨年が2,500万円、今年が4,400万円だった。調べたところ、車券の売上に対する払戻率を、Kドリームやオッズパークが77%に対して、チャリロトは87%と非常に高い数値だった。予想についても、スポーツ報知の記者による予想が非常に当たっていて、当たる予想を提供していた。

(ジャパンカップ (ガールズケイリン) について)

- ・千葉競輪開設記念の次に大きな売上額になると予想される、ジャパンカップが12月に開催される。千葉で初めてのガールズケイリン開催となる。ガールズケイリンの開

会式をイベントとして行う。勝利者インタビュー以外に特別選手紹介を実施して、ガールズケイリンの予想会も実施する。

- ・選手トークショーやバンク内観戦を行い、ファンと記念撮影を予定している。
- ・未確定車券抽選会を実施し、ニコニコ生放送にもガールズの選手を始め男子の地元人気選手が最初から出演した。
- ・サイクルカフェの AWAY WE GO がオープンする。美容関係の会社を呼んで、スモージーやネイルアートなどブースを出店する。
- ・最終日に、第3回アフターナイトパーティーを実施して、選手に参加してもらう。チャリメングランプリを行い、コンテスト形式で投票する。ガールズケイリンの選手も参加する予定。

(篠崎委員長)

千葉競輪開設記念の結果報告について、今までの色々なイベントが、良い結果に結びついてきたのか。

(J P F)

- ・お客様による選手への応援を大事にしている。場内のイベントに関しては、選手紹介の時やレースの時に、地元の応援したい選手に対してスタッフが音頭を取っている。選手たちも応援の声を聞いて、奮起して頑張っている。
- ・場内で応援のやり方をお客様にうまく伝えようと試みている。お客様にメガホンを渡すなど、工夫している。

(高岡委員)

民間投票サイトのチャリロトの売上が、前年比で伸びているという説明があったが、K ドリームスも結構伸びている。一方で協力場外競輪場の売上が下がっている点について、どのように分析をしているのか。また、全体的に平成28年度の全国的な売上が下がっているという説明があったが、千葉競輪開設記念の売上順位についてはどのように分析しているのか。

(J P F)

- ・電話投票の売上額については、オッズパーク、K ドリームス、チャリロトという順番。オッズパークはもともと競馬の方からの流入したお客様が非常に多い。
- ・K ドリームスは今までのキャッシュバック率を上げて、売り上げを伸ばしている。女性タレントを起用してコーナーを作るなどの試みを積極的に実施している。
- ・チャリロトは、業界で最初に重勝式販売を実施した団体だが、競馬、ボートなどを楽しんでから、そのあと競輪を楽しむという方が多い。
- ・協力場外競輪場の売上が落ちているということについては、千葉競輪開設記念に対してF I を他場で売る、今まではGⅢなのだから他の場は売るのを抑えていたのが業界

の通例だったが、今年は千葉だけでなく、記念開催時の他のF Iの併売が増えている。このため、GⅢの全体的な売上が下がった要因となっている。

- ・平成24年度の千葉競輪開設記念の売上が64億円、平成25年度が63億円、平成26年度が62億円、平成27年度が61億円と毎年1億円ずつ売上額が下がっている。競輪のお客様の年齢層が高く、ご来場できないお客様が増えてきたことも大きい。今年、GⅢの平均売上額は約55億円。12月、1月は、売上が戻る時期ではあるので、ここの数値は上がると想定している。

(高岡委員)

全国的な売上が減っている背景はどう考えるのか。

(J P F)

- ・併売が影響していると考え。千葉競輪開設記念の開催時に、今までは他場では昼間のF I開催は被らなかった。
- ・F I開催には人気選手が出場するため、千葉競輪開設記念の売上を邪魔する要因になる。以前は、F Iをぶつけないというのが通例で、業界全体で守り合ってきたが、今年、他の地域でF Iを併売したことから、そちらに売上額が動いた。

(高岡委員)

全国で開催されているレース全体の売上では変わらないけども、千葉競輪開設記念の売上額が減ったということか。

(事務局 鴻崎所長)

- ・今、一番車券売上額が伸びているのが、ミッドナイト競輪。全国で2%くらい上がっている。GⅢの車券売上額は下がっている。昨年もGⅢの千葉競輪開設記念については、車券売上額が落ちている。

(篠崎委員長)

千葉競輪開設記念の報告については以上とする。

議題3のその他について、事務局に説明を求める。

(事務局 鴻崎所長)

- ・千葉競輪場のあり方についての検討状況について報告する。平成27年度の1月に廃止に向けて検討を進めると発表した。その中で、競輪事業の存続について、模索してきた。
- ・現在、包括委託業務を受託しているJ P Fから、競輪場の敷地に多目的ドームを整備する提案があった。具体的には、6月にJ P Fから市長に対して、自己資金で競輪場を再整備するという提案。経産省の告示の中で、競輪場の周長を300m以上500

m以内と規定しているが、周長250mは規定から外れている。250mは、国際基準のトラックの周長となる。

- ・今後、250で競輪ができるかどうか、あるいは選手がそこで走れるかどうか、そういったことを、これから各関係団体と検討していくことになった。廃止報道から今まで、廃止に向けての動きが主だったが、この提案を受けて、存続に向けて明るい内容が出てきた。
- ・平成29年度の上期に本市として存廃について判断する予定。

(事務局 池原経済企画課長補佐)

- ・今までは、廃止に向けた調整をしてきたが、存続の手法として一つの選択肢が出てきた。現状の提案を受けた形で千葉市として関係機関と調整を行い、同意が取れるかどうか、取ればこれで行くのか、実現に向けて整理していく。
- ・施設の整備費用は、JPFが負担するとの提案があった。
- ・施設建設については、底地の4ha中3haが国有地であるため、底地をどのように整理するのか検討する。
- ・都市計画決定上は千葉公園の区域内に競輪場のエリアは含まれているが、都市公園法における千葉公園のエリアからは外れている。建物の建設条件に色々制約がかかってくると思われるので、法律上の施設の位置づけなども整理しなければならない。
- ・各関係団体の了承を受けて、周長250mのトラックで競輪事業を開催できるのかが課題である。

(事務局 鴻崎所長)

- ・東京オリンピックでも自転車競技での使用が決まっている伊豆ベロドロームが、日本で唯一の250のトラックである。日本競輪学校にあり、国際規格の施設であることから、オリンピック候補選手などが練習している。
- ・伊豆ベロドロームは、あくまでも競技場であり、競輪としての車券発売はできないスポーツ施設。文科省管轄。競輪場は経産省管轄。
- ・選手も現在の9車立の競輪を、国際規格の250m周長でできるかどうか不安に思っている。審判を担当するJKAや日本競輪選手会とも協議している。

(篠崎委員長)

今までの選択肢である、続けるかやめるかに、もう一つ250競輪での事業継続が加わったということで、今時点では何も決まっていないということか。

(事務局 鴻崎所長)

- ・250競輪の検討に着手することが決まった。

(篠崎委員長)

取扱注意か。

(事務局 鴻崎所長)

- ・そのとおり。今後、議会に報告する予定。

(篠崎委員長)

議会にいつ報告するのか。

(事務局 鴻崎所長)

- ・12月の議会で、新しい250競輪の検討も進める方向性を示す予定。
- ・国際トラック競技に挑んでいる日本人の競輪選手もいる。日本の競輪に参入している外国人選手も強い。オリンピックでも、ヨーロッパの選手が強いので、自転車競技＝競輪を結び付けていることで、日本人の競輪選手がオリンピックに選手として出場したときに勝ってもらいたいという含みもある。

(篠崎委員長)

250競輪というトラックの競技が競輪として馴染むのか。関係団体からの感触はどんな感じなのか。

(事務局 鴻崎所長)

- ・若い選手は競輪学校在学中に伊豆のベロドロームで練習している。年配の選手は、実際に走れるかと聞かれたら、考える方もいると思う。
- ・新しい競輪はオリンピック競技に近くなり、新しいファンが来る可能性もある。
- ・ミッドナイト競輪を始めた当初はあまり売上が上がらず、結構厳しいものだったと聞いているが、現在は、ミッドナイト競輪の車券売上額の伸びが一番高い。

(事務局 池原経済企画課長補佐)

- ・オリンピックなどでやっている、カタカナというかアルファベットのケイリン。そのケイリンにお金を賭ける方向でと考えている。
- ・公営ギャンブルとしての面白さのバランスをどこでとるか、今後協議していく。

(事務局 鴻崎所長)

- ・ガールズケイリンはラインがないので、新しい競輪といえる。

(事務局 池原経済企画課長補佐)

- ・スポーツライクな方から新たなファンを取り込み、従来の競輪にもつなげていきたい。

(高岡委員)

関係団体とのやり取りはどのような状況か。

(事務局 鴻崎所長)

- ・今後、検討を進めるという、入口までこぎつけた状況。

(事務局 池原経済企画課長補佐)

- ・ようやく共通のスタートラインに立ったところ。

(篠崎委員長)

了承。